

次世代脳プロジェクト 冬のシンポジウム 2017 アンケート結果

(参加者507名 うち回答者数26名)

1. あなたの所属を教えてください

- 大学・大学共同利用機関等の常勤職員 / 15
- 大学院生 / 6 ■ 学部学生 / 1
- その他の非営利の学術研究機関に所属する常勤職員 / 0
- 病院 / 1 ■ 企業 / 1 ■ その他 / 2

2. 質問1でその他とお答えいただいた方

- ポスドク / 1 業界団体 / 1

3. 実際に参加した日程をお答えください

- 12月20日(水) / 18 ■ 12月21日(木) / 16
- 12月22日(金) / 17

4. どのイベントに参加しましたか

- a. 「記憶ダイナミズム」「人工知能と脳科学」「オシロロジー」「適応回路シフト」
4領域合同若手シンポジウム / 12
- b. 「共感性」「こころの時間学」「意志動力学」「個性創発脳」「思春期主体価値」
-意思決定の進化・脳・心理基盤- / 10
- c. 「温度生物学」-温度脳神経科学- / 2
- d. 「グリアアセンブリ」「脳タンパク質老化」-グリア研究とタンパク質老化研究の接
点を求めて- / 5
- e. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム 科研費改革および脳科学研究推進に関する
動向 / 7
- f. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム
「脳情報動態」企画ミニシンポジウム「行動制御を規定する多領域連関」 / 9
- g. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム「日本の神経科学～温故知新～」 / 8
- h. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム「デコーディング脳科学 細胞から心まで」 / 9
- i. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム ポスター発表 / 12
- j. 「スクラップビルド」「脳構築の時計と場」合同若手シンポジウム / 14
- k. サテライトイベント「適応回路シフト」国際シンポジウム / 3
- l. サテライトイベント「人工知能と脳科学」班会議(班員限定)(CLOSED) / 1
- m. サテライトイベント「オシロロジー」班会議(班員限定)(CLOSED) / 2

5. 参加したイベントのうち有意義と思われたイベントはどれでしたか

(a~mは問4に準ずる)

a / 8 b / 9 c / 2 d / 4 e / 2 f / 7 g / 6
h / 6 i / 10 j / 9 k / 4 l / 1 m / 2

6. シンポジウム開催について

- 是非継続してほしい / 21 ■ どちらでもよい / 2
- 必要性を感じない / 0

7. シンポジウム開催時期について

- 今年度と同じでよい / 20
- その他の時期がよい / 2 (8月、11月末~12月初)

8. ポスター発表について

- 是非継続してほしい / 18 ■ どちらでもよい / 3
- 必要性を感じない / 0

9. プロジェクト(シンポジウム開催、その他の取組)に関して、ご意見・ご感想があれば、ご記入ください

- ・最新の研究を多岐にわたり知ることができ非常におもしろかった。
特にデコーディング脳科学は、基礎から応用まで知ることができとても為になった。
- ・「ヒトを対象にした研究」のセッションがあると臨床医にとっても研究の切り口のヒントが得られると思うので、ぜひお願いしたい。
- ・ポスターセッションが11:00~14:00なのはよいのだが、ポスター番号の偶数・奇数毎に発表時間を変えるなどしないと効率が悪いと思う。
特にポスター賞のある学生を含む若手発表者は人に来てほしいという一方で、他の人の発表を見たいという思いもある。
今回のように全員が一斉に発表をするメリットがわからないので、ぜひ改善してほしい。

10. 脳科学研究をこれから更に推進するために必要な要素はどれでしょうか

(複数回答可)

- 常勤職員の増員 / 8 ■ ポスドクの増員 / 7 ■ 大学院生の増員 / 6
- 補佐員の増員 / 5 ■ ポスドクとその教育の質の向上 / 2
- 大学院生とその教育の質の向上 / 5 ■ 補佐員とその教育の質の向上 / 0
- 国内研究者間の研究交流 / 6 ■ 国際的な共同研究 / 4
- 大型研究拠点の充実 / 1 ■ 支援拠点の充実 / 4
- 支援の種類の多様化 / 5 ■ 民間企業との連携 / 4
- より基礎的な研究の充実 / 6 ■ 出口の見える応用研究の奨励 / 3
- 一般向けの科学コミュニケーションの推進 / 2
- 教育研究以外の雑用を減らす努力・工夫 / 10
- 安心して研究に打ち込める環境作り / 9 ■ 異分野交流・共同研究の推進 / 7
- 多様な研究者の意見を取り入れる仕組み / 2
- 研究成果の社会への還元 / 4 ■ 英語使用の推進 / 3
- 評価・審査時の利益相反排除の徹底 / 0

11. 脳科学研究の将来の発展に重要と思われる要素について自由にご意見をお

書きください

- ・学際的研究を進めるための多岐分野にわたる大学生・大学院生への基礎的な教育の充実
- ・異分野交流のためのシンポジウム、懇親会、勉強会を月1・週1で開いてほしい。
学生にとってそういう機会が必要。
- ・近年、短期間での成果を求める傾向が強すぎるように感じているので、その点を5～6年程度のスパンで評価してもらえるように改善してほしい。良い仕事というのは概して長期間の安定したポスト・グラントの中で生まれると思う。
- ・周りの優秀な学生が、金銭的理由で進学を諦めています。もちろん、学振や奨学金を利用すれば良いのですが、取れなかったらという不安が大きいのは事実です。これまでは「研究が好きだから給料は気にしない」という文化・風土がありましたが、積極的に若手に資金を投入して頂けるとありがたいです。このままでは研究の道へ進む人が減っていくのは避けられないと思います。
- ・ポスドクを研究者と見るなら、安心して研究に打ち込める環境作りを、労働者と見るなら、労働基準法に則った環境作りが必要だと思う。40才目前で、まったく希望がないです。脳科学研究の将来を考える余裕はありません。